

## 津波の「第一波の高さ」と「最大の高さ」について

仙台管区気象台  
気象研究所

過去に発生した津波の「第一波の高さ」と「最大の高さ」の関係について調査した。

最大の高さは、第一波の高さの数倍から、大きい場合には数十倍になる場合がある。

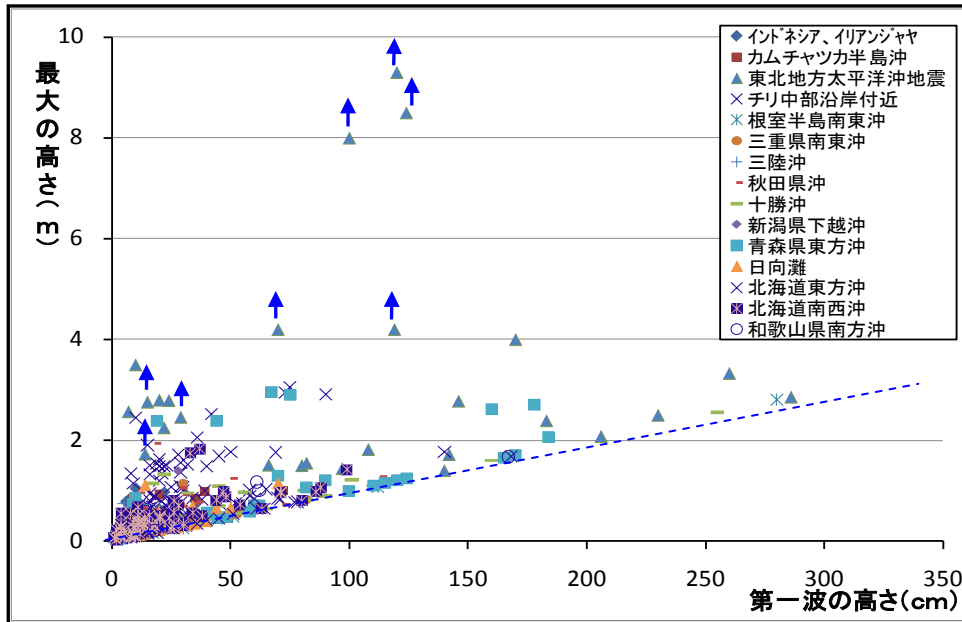
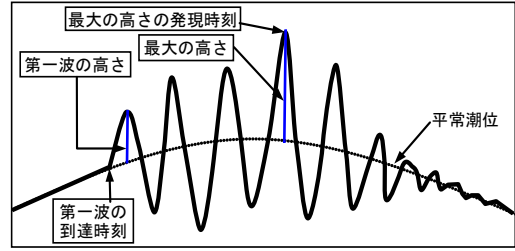


図 1：第一波の高さと最大の高さとの関係。

最大の高さが 1 m を超える津波であっても第一波の高さは数十 cm 以下あるいは数 cm のものが少なくない。(↑印付きのデータは、最大の高さが、それ以上を示す)。

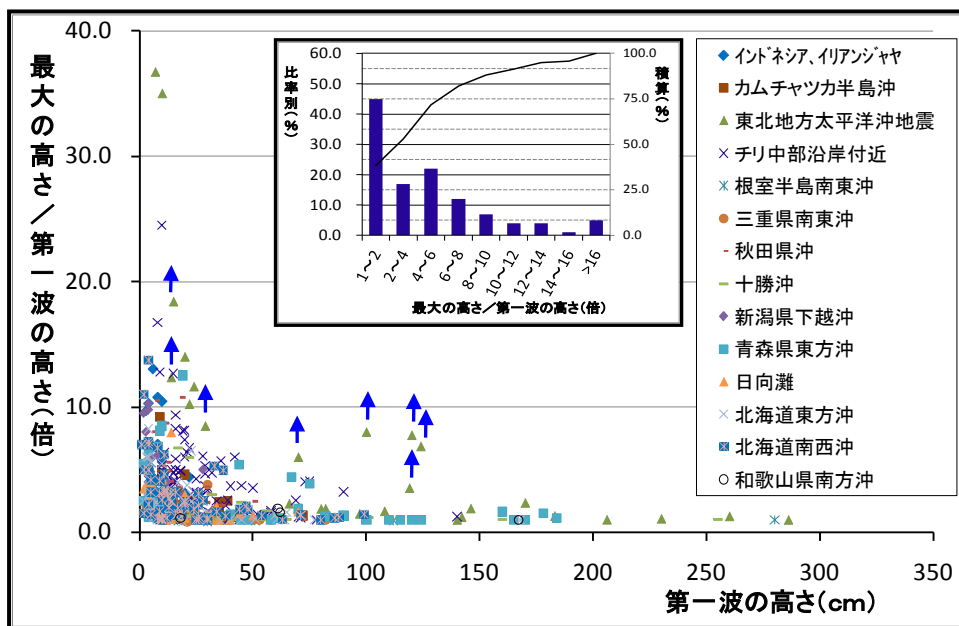
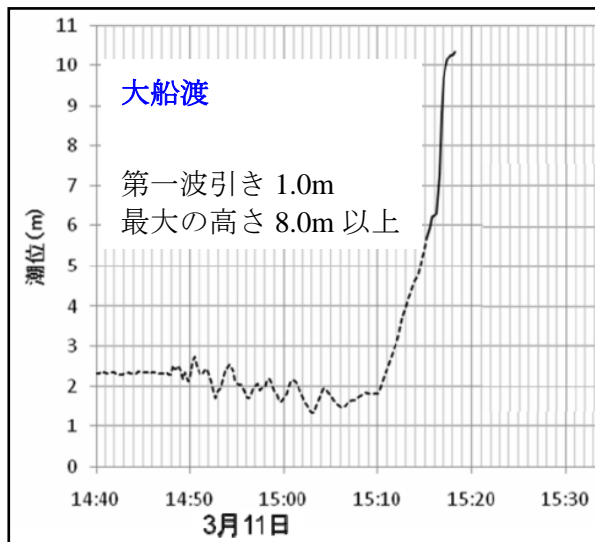
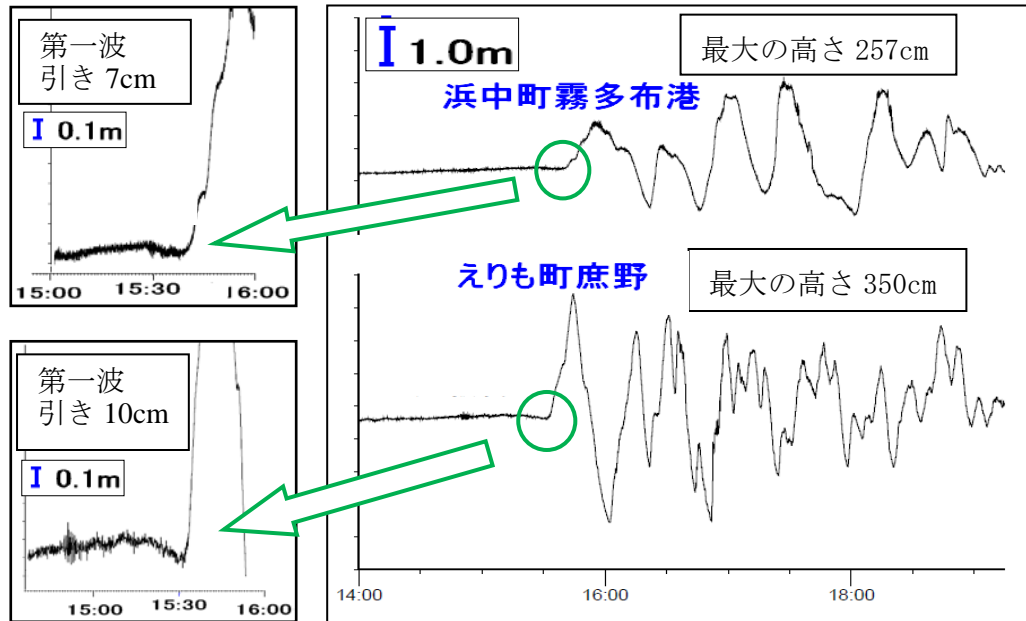


図 2：第一波の高さと(最大の高さ/第一波の高さ)との関係。

最大の高さは、第一波の高さの数倍から、大きい場合には数十倍になる場合がある。最大の高さは、第一波の高さの 4 倍程度以下が 50% を占めるが、10 倍以上となる場合も 10% を超える。(↑印付きのデータは、最大の高さが、それ以上を示す)。

(参考)

○東北地方太平洋沖地震で観測された津波の記録例。



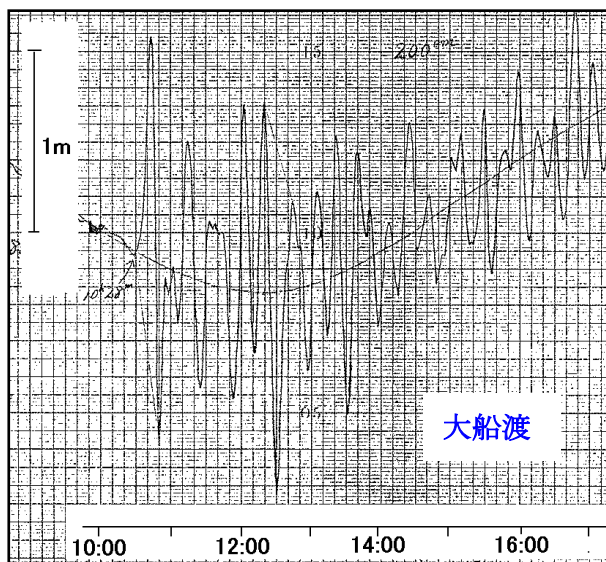
上図 上：北海道浜中町

上図 下：北海道えりも町

左図 : 岩手県大船渡

(注) 大船渡の観測値について、津波情報では14時58分現在の値として、引き波の第一波を14時46分に観測、第一波の高さを0.2mと発表した。

○第一波の高さと最大の高さが、ほぼ同じであった津波の記録例



1968年5月16日十勝沖地震により、大船渡で観測された津波の記録例。

第一波押し 1.1m

最大の高さ 1.1m